

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第 28 回目となる今回は、市内の永山第 3、永山第 2 地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

43 人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日 時	平成 20 年 6 月 9 日(月) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 05 分
場 所	旭川市永山公民館 講堂(旭川市永山 3 条 19 丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(43 人)

対話の内容

※参加者はアルファベット(A～K)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。

6 月に入りしばらく寒い日が続いていましたが、今日は久しぶりにとても暖かい日であり、皆さんには、お忙しい夕方の時間にお集まりいただきましてどうもありがとうございます。

地域の対話集会をこれまで市内各地域の対話集会を各市民委員会単位で進めてきたのですが、永山の第 2、第 3 地区は本当に遅くなってしまいましたことをお詫び申し上げなければいけないと思っております。特に遅くなった理由はないのですが、強いて言えば私の生まれ育った地域ですから、若干後回しにしてもいいのかなというような思いもあったのかもしれません。今日は限られた時間ですが、是非、皆さんにいろいろと地域の思いや希望等もあるでしょうし、また市政全般、もう少し広く国や道に対してこういうような要望なんかを出してもらえないだろうか、様々なご意見、お話を聞かせてもらいたいと思っていますところでは。

永山地域については駅前がきれいに整備され、上川支庁までの道路も太くなっているのですが、一方では、かつての農協があった時の賑わいも含めまして、きれいになったけれども、商店もなくなってきて、さみしいというような声も聞いております。また、かねてから永山駅を越える形で裏町



の方に行けるような跨線橋のようなものをつくってほしいという要望をいただいております。JRにも要望させていただいているのですが、なかなかJRの財政の影響もあるのですが、実現できていないという課題があります。

また、永山が市街化区域に入りまして、従来永山町何丁目という表示が残っている部分が、向こうの牛朱別川の方とこちらの線路の裏の方とで分かれていまして、慣れた人なら分かるのですが、同じ町名が正反対の場所にあるので、同じ永山町10丁目といっても、会社だったらこっちだな、個人の家だったら農家だけどっちかなと非常に混乱しているというお話もあって、これの住所変更の部分の話などもいただいているところです。住居表示については、今まで順次進めてきているのですが、市の財政の問題もあるものですから、なかなか作業が進んでおりませんけれども、地域からそういったご要望も受けているところでございます。

まもなく永山の屯田祭りが始まります。これが旭川の中でも代表するお祭りにまで発展成長することができたのは、本当に地域の皆さん方のお力添えがあってこそと思います。これを育てていただいたことに感謝と敬意を表するとともに、今後ともこのお祭り、永山の神社祭もありますが、地域の元気のために地域の皆さんのお力添えをいただければなと思っていますところでございます。

この対話集会でいろいろな地域、また団体の皆さんからご意見等をいただきまして、すでに市の中で実施をさせていただいたというようなことも幾つもございます。

例えば、身体障害者の方が優先的に市営住宅に入居できる枠を増やしてほしいという要望に対して、百数十戸、枠数を増やさせていただいたり、また、精神障害者の方にバス料金の助成ということで、今年度から年間3千円のバス回数券を交付させていただいたり、また、今パークゴルフが非常に人気がございます。市内にも河川敷を含めましてたくさんのパークゴルフ場があるのですが、芝の管理が非常に悪いというご意見をいただいております。財政的な部分もあるのですが、今後、給水施設をつくって芝の管理をしていきたいという思いはもっております。末広の秋月橋のたもとにあるパークゴルフ場に給水施設があり、地域の愛好家の団体の皆さんに一部管理を委託するというのを今年度から実験的にスタートさせていただいております。

引き続き、このパークゴルフ場ですとか地域の公園なども愛好家の方ですとか、また町内会などにも委託していくこともこれから順次考えていく必要があるのかなと思っています。行政と地域の皆さんとの協働での地域づくり、また、一番身近に居る人たちが公園や施設などを愛着を持っていつも使われるわけですから、そういったことも一つ一つこれから進めていけたらいいのかなという思いもしております。市の財政について、旭川市も含めて地方都市の財政が非常に厳しい中にごさしまして、市民の皆さんをはじめ、いろいろな関係者には、例えば補助金、助成金の削減がこの7、8年ずっと続いて来ている中で、本当に私も申し訳なく心苦しいのですが、皆さんにご理解をいただいているところでございます。

財政状況が悪くなっている原因はいくつかあるのですが、この近年の中で私どもにとって一番ボディーブローのように効いているのは、国からの地方交付税の削減ということが非常に大きいわけでございます。平成19年度におきましても20数億円の地方交付税が削減されたと言うことで、平成20年度においても同規模、また21年度以降についてもこれが復活する見通しが今のところなく、さらに削減されていくような国の動きになっており、私どもも全国市長会や全道市長会を通じて、国に対して交付税の復元ということも訴えてはいるのですが、まだなかなかされないわけでありまして。

しかしながら、そのような状況の中でも地域づくりということに対しては、知恵を絞って何とか財源をつくりながら努力することで、どれだけ市民の皆さんに幸せと豊かさを感じていただくことができるかということが、地方自治体に課せられた課題であると思っておりますので、引き続き私どもも知恵を絞って、この財源の確保、また景気が良くなることによって税収も増えてくるということもねらいながら、地域の得意分野である、例えば農業なり食品関係を除く製造業、こういった産業をしっかり育てていくということと、そこに雇用をどれだけ生み出していくかということが大きな課題ではないかなと思っています。

また、観光で申し上げます、旭山動物園が引き続き好調です。今年もテレビドラマがこの先5月に1本あり、夏にも1本全国放送されていくということと、来年は映画が全国ロードショーされる予定です。この映画を台湾、香港、シンガポールなど、アジアでも上映できないかということ

で、今、角川映画さんにいろいろお願いをしているところでございます。動物園を核に観光、多くの方に来ていただくことができるように取り組んでいきたいと思っております。

また今、動物園人気の効果で旭川の知名度が上がっている時期ですので、これをどうやってほかの産業に波及させていくかということも課題です。ホテル業界、運送業界、おみやげ屋さんやお菓子屋さん売り上げが何倍にもなっているような企業も市内にあります。まだまだもついろいろな業種や市民の皆さんが実感するところまでにはほど遠い状況かなと思いますけれども、この辺も企業の皆さんともいろいろ意見交換をしていながら進めていかなければいけないのかなと思っております。

また市役所の内部のことですが、ちょうど5月に機構改革を行いまして、いろいろな部署が新しい名称になり、今までなじみのあった名称が変わり、慣れていただくまで少し時間がかかるかもしれませんが、今日も税務部という新しい部の部長に来てもらっていますが、税金や国保料などの様々な徴収の業務などをこの税務部に一元化していくということで、今までいろいろな部にまたがっていたものを一つの部に集約させていただいたり、また子育て支援部という新しい部も設置させていただき、これも今まで教育委員会、保健福祉部などにいろいろとまたがっていた業務を極力ここに集約させていただいております。引き続き皆さんに使いやすい、わかりやすい市役所を目指して職員も一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導をいただければと思います。

冒頭簡単に市政のご紹介も含めてごあいさつをさせていただきました。この後皆さんからいろいろご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

参加者A

おばんでございます。

これから述べますことは、うちの地域の人や老人クラブ、町内の多数のご意見を集約したものです。主に市役所の内部の組織改革について話をさせていただきたいと思っております。

ここにご参集の大多数の皆さんは私と同様、疑惑のデパートとやゆされた前市長に非常に不信感を抱かれたと思っております。「対話から市政を動かす」、「市民生活者の目線による市政」、「市民との協働による市政」をスピーディーに改革するのが、西川さんカラーだと信じて、フレッシュで青年である西川市長に期待して投票したと思っております。

私も公約を信じて「市長への手紙」等で財政改革について多数の提言を継続してまいりました。ところが市長の公印を押した回答書の全部が判で押したように「一生懸命努力するのでご理解願います」式でこれが市長の回答書かと思われる無責任的、責任逃れのものばかりでした。専決委任、市長が部長に委任したことで、専決委任した市長はこの実態をご承知でしょうか。

それから市長就任後、最大の任務である予算を2回も編成されました。19年度、20年度の予算編成書をチェックしましたが、市長の公約、市政方針で述べたとおりになっているでしょうか。残念ながら行財政改革に優先度、行程表、約束評価判定等、スピーディーに積極的に対応するという西川さんカラーが感じられませんでした。市長の威令はどうなっているのでしょうか。威令というのは威厳のある命令ということです。行財政難にかこつけて多くの社会的弱者対策に「受益者負担」という美名のもとで、例えば敬老祝い金廃止、寿バス2千円の負担継続、母子所帯の減免軽減措置の廃止等々多数です。

その反面、私たち市民が昔から改善提案している150億円にも及ぶ第3セクターの改革は遅々として実現されておりません。議会でも予算組替え動議が提出されたり、旭川駅グレードアップ等々21億円にも及ぶ事業費等について事業費縮減の附帯決議が可決されたり、公認会計士からは第3セクターの見直しを指摘され、やっと思直しをすると表明する始末です。全く実行がスローモーションであります。

5月13日の対話集会での市民の改革質問に対して、市長は「種々の壁があつてなかなか西川カラーを出せない云々」と言っていました。市民にはその要因が理解不能でした。壁とは何でしょうか。市の行財政を赤字化した責任は市民ではありません。それは西川さんばかりではなく、もっと前からなのですが、市長はじめ市幹部の先見性がないためではありませんか。

次に、5月8日の道新コラム欄で、市長は町内会に加入せず協力しない職員に対しては「勤

務評定制度に反映させることも検討したい云々」という趣旨のことを発言されておりました。大政翼賛会思想を連想させるぞっとする発言だと思いました。

最後になりますが、市長は突然何の前触れもなく5月15日、来年の10月から年金から住民税を天引きする条例案を提出し、5月22日に強引に可決されましたとの報道がありました。町内会、老人クラブ、高齢退職者連合等々多くの皆さんの納税率は91%という高納率です。なぜ今さら突然との怒りの声が非常に多いです。法令の根拠とこのことを強行した市長の哲学について説明していただければありがたいものです。

西川市長は最高権力者ですから、以上の事柄について安易、軽々に発言する態度に恐怖すら感じました。このような耳障りな意見も永山出身でフレッシュな青年市長に対する期待が大きければの提言であります。

現在、ガソリン価格の動向を市では簡単に電話調査していると聞いています。電話ではなく、もっと実際に歩いて最高、最低、平均値の価格を調べ発表するようにしたらいかがでしょうか。

それから、財政難の中、永山6条24丁目付近の通学路歩道整備は、果たして緊急優先事業でしょうか。福祉教育医療等々とのバランスで配慮するべきではないでしょうか。百年後の理想論もさることながら日々額に汗して働いている住民にわかりやすい言葉でご説明願います。

それからこれはおまけになりますが、5月13日の対話集会で私が発言した事項に関して、6月2日に担当幹部から、市長が十分に説明したことであるから、文書回答をしなくても良いのではないかと思うが、あなたのご意見はどうなんだという電話がありました。びっくりしました。このことは「市民との対話により市政を動かす」とか「市民生活者の目線と協働による市政」云々の市長公約にも反するものではありませんか。この行為は果たして市長の意志で指示・実行されたのでしょうか。市長との対話内容の詳細は事務方で録音記録しているはずですから再確認して、きちんとした回答をお願いいたします。

繰り返しになりますが、前述のごときご理解願いたい式の一辺倒な回答書の電話の件でも分かるように、市長と幹部職員のパイプはどうなっているのでしょうか。

また、対話の時、市長はいつも直接気軽にお話をしに来てくださいと言われました。それはそれでありがたいことですが、それはそれとして、役所には組織と職制が制定されています。市長はまず幹部に対して独善・独裁的でない威令をもって幹部のコントロールを迅速・強力で徹底させるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

いつでも気軽に市長室を訪ねて直訴してもいいというような件ですが、このことは外交辞令的などとも言えますけれども、秘書課や各部門の関係者に言いますと、簡単には市長に会わせてもらえません。また、このように自由に市長室に行くというのは私から見ると礼儀に反すると思えるので、できるだけ部長で完結するようにならなければありがたいなと思います。もしこうしようとしたのであれば、市長自らが簡単に市長室に出入りするよう内部制度を迅速に変革したらいかがでしょうか。

次に、市長にいつでも気軽に話し合えるという思想なら、まず市長室のドアを常時オープンにするようなこともいかがでしょうか。

それから、気軽に市長室に出入りし直訴することは礼儀としても反すると思います。いかがでしょうか。

役人以外で市長を陰で強力でサポートしたり諫言というのですか、いさめたりする、いわゆるブレーンを設置するような検討したらいかがでしょうか。

最後になりますが、いろいろと無礼なことも述べましたが、これも郷里永山出身の市長に間違ふことなく永続していただきたいことから述べた次第です。以上です。

市長

いろいろとご質問がありましたので、本当に簡単ですが、後ほど何かの機会の時にいろいろとお話しさせていただいた方がいいのかなとも思いますが、いただいた「市長への手紙」は私もしっかり目を通しております。また、私の読解力がないせいか難しい部分もあって、十分に答え切れていないのかなという反省もあるのですが、ちゃんと目を通しておりますので、引き続き私どもも真摯に受け止めて行きたいと思っております。

また、市のいろいろな助成金の削減についてもふれていただきました。一つ一つが苦渋の決

断でございまして、敬老祝い金もそうなのですが、その部分は子育ての部分に振り分けたいなという思いもありながら、妊婦さんの健診回数を増やしたり、保育所の数を増やしていったりなど、いろいろと知恵は絞っているのですが、この辺も非常にそういう面では嫌いな言葉かもしれませんが、何とかご理解いただきたいなという思いでおります。

第3セクターについては、包括外部監査の指摘、結果が出まして、これについても新しく設置した行政改革部において、今年1年かけて第3セクターの本来の目的・趣旨からずれてきているものがあるのではないかとということもありますので、統合、廃止できるものはないだろうか、また引き続き必要な部分などについて、今年しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

道新の記事に町内会の件が載ったことは、私も知りませんでしたので、先日の対話集会で言われた後に、新聞記事を探して見付けましたものですから、ちょっと失礼しましたが、町内会に入らない職員を処遇に反映するということは考えておりません。ただ町内会に入ってボランティア活動を頑張っている職員さんは是非そういった部分で回りの人にもそういう空気を広げてもらって、是非地域づくりのリーダーとして頑張ってもらいたいなという思いはもちろんあります。何行かだけ読むとそういうふうに誤解されかねない記事ですが、私の真意でもありませんし、そう言った言葉を私は発したつもりはないのですが、記者の先入観もあってそういう書き方のなったのかなと思っております。

また、住民税の天引きについてですが、議会でもいろいろとあった話ですが、今日、税務部長も来ておりますので詳しい部分は後で触れてもらおうかなと思います。この住民税の天引きについては、国の制度というところはあるのですが、後期高齢者医療制度が始まり、これも天引きされ、今年の10月から国民健康保険も天引きされる。来年10月までには、全国すべての自治体で住民税を天引きできるような制度を作りなさいという国からの指導の中で、私ども市も行ったわけですが、時期としては本当に年金生活者の方には私どもも申し訳ないなと思っております。ただ、負担が増えるということではございません。それと旭川市には約9万人の年金受給者の方がいらっしゃるのですが、うち約7万人の方が非課税の方ですので、この方々には住民税は課税されておりませんので、残り2万人程度の方々は高齢者の中でも比較的所得の高い方なかなと、高い方々といってもそんなに高いわけではないでしょうけれども、そういった方々を対象に国の制度に基づいてやっているということですので。

永山6条24丁目の道路整備について、今、詳細は私も把握していませんけれども、そこがきれいになっているのは見て知っておりますが、いろんな地域からの要望があってできてきているのかなと思っております。

今後とも文書回答を含め、私一人では全部対応しきれないものですから、担当部長含めて、いろいろと意思疎通、意見交換させていただけたらと思います。

また、市長室の部分について、いつでもお越しいただきたいということで秘書課にご連絡いただいてという意味でございまして。私もいつもあちこちと出たり、打合せしたりと市長室にいることはほとんどないので、なかなか直接という時間がとれなくて申し訳ございませんが、秘書課長なり、副市長なりが私の代理として対応させていただくということで、それでもどうしてもご理解、納得いただけない場合は、私も直接時間を取って会わせてもらうということがいいのかなと思っております。

非常に簡単でございましてけれども、よろしく申し上げます。

参加者B

市側の回答、市長の回答はあまりいいりません。より多くの市民の声を聞くために対話集会をしているのだから、答弁などに時間をかけたら意味がありません。今も一人のために10分もかかっているでしょ。そんなことをやっていたら、何人発言できるのですか。

市長

主旨はよくわかります。今日はあまり時間もありませんので、この場で返答がほしいという方だけお答えします。返答が後日でいいという方には連絡先を教えていただければ、後日お返事するということにいたします。それでよろしいですか。

参加者C

市長は永山生まれです。だから我々も協力しているのです。いわゆる永山生まれは屯田魂を忘れるなどということです。

昭和36年、旭川市と永山は合併して、この時、五十嵐広三市長で我々も随分と頑張りました。その時に永山の都市計画を策定するにあたり、当時の市の担当者は私と一緒に永山4丁目から5丁目まで測量して地割して都市計画をつくりました。そんなことは知らないでしょ。その後その市の担当者が助役になりました。まだまだたくさんあります。永山に鉄工木工団地をつくるという話があって、その当時私は野菜農家をしており、振興公社の職員が5、6人毎日来て用地買収の話をしていきました。鉄工木工団地つくるためにね。大変苦勞したのに一銭ももらっていません。

土地改良区で行った都市計画について非常に頭にきたことがあります。我々が必要書類を取りに行くと20円か30円取られるのに、小使いが来たら取られないのです。小使いってわかりますか。市会議員のことです。頭にきたから総務部長の机の上に長靴履いたまま、でんって乗っかって、あぐらかいて「この野郎って」言ったら、その後はお金を取らなくなりました。だから役所はおかしいって言うのです。そういうくだらないところがあるんです。だから公務員はでくのぼうって言うんです。

永山西小学校をつくる時、永山1番線と国道の間がどんどん宅地化されて、用地がなくて道路もできず、北電は電柱も立てられない、どうにもならないことになった時、私が札幌行って交渉して用地買収して道路ができるようにしてあげたんですよ。これも一銭ももらってないです。そういうこともあったんです。

それから、市役所というのは全く間が抜けています。国鉄が宗谷線を2車線にしたいという。2車線するのに市はどうやってしつらいのかと困り、私のところに来ました。「国鉄は2車線はいらないから、宅地を売って金儲けをしているんだよ」と市役所に電話したのですが全く相手にされず、「儲けの3分の1ぐらいもらえ」って怒鳴りつけたけどだめでした。役所ってでくのぼう。公務員はごみ。それだけははっきり言える。

それともう一つ。永山西小学校でスケートリンクをつくりました。旭川一のスケートリンクです。PTAなどはそうやって苦勞をしてきたのです。今のPTAは何も善悪を教えません。学校もです。こういう基本、原点を市長は振り返って考えて、市長は屯田魂を復活してください。

市長

精神的なお話をいろいろいただきました。しっかり受け止めて頑張りたいと思います。

参加者D

こんばんは。いつもお世話になっております。

我々は障害者なのですが、市で障害者がつくった物を売る売店を市内に設けていただけたらと思います。西武デパートやどこかのビルなどで売店を開いたりしていますが、いつもどこか探さなくてははいけないので大変です。よろしく願いいたします。

市長

引き続き増やしていけるように頑張りたいと思います。

参加者E

私は簡潔に5つほどお願いやお尋ねをいたしますので、ご回答をお願いいたします。

まず一つ目は、第23回の対話集会で紙やプラスチックの資源ごみの回収を増やしてほしいというお話があったのをホームページで見ました。その時の市長が「検討します」という返答をしていますが、その後どうなったのかお聞きしたいと思います。

二つ目は、市職員の町内会加入について、若干関連しますけれども、市長の立場としては組合には申入れはしていますか。これをお尋ねいたします。約80%の方が加入されているということはホームページで見せていただきましたけれども、組合に対する申入れをしたかどうかということが経過を見ても出てきてませんので、その辺知りたいと思います。それから、駅裏から

のアクセスの問題ですが、JRの財源がどうのこうのというお話しが市長からありましたけれども、私の経験から言ってもJRがお金を出すわけがありません。田舎でも駅舎をつくるのにほんのわずかしお金を出しません。旭川駅で26億8千5百万円という金額が出ていますが、それと比較したら永山駅裏からのアクセス整備はほんのわずかだと思います。なんとかなりませんか。それからもう一つは駅裏にある会社が昔駅裏からのアクセスの準備のために土地を購入して、今でも使わない土地を所有したままになっています。せっかく好意を持って、待ってくれる方もおります。要望書を出しておりますけれども、その辺もう少しつっこんでみてはいかがかなと思います。

それからもう一つは、街路歩道をつく時に、国の基準やあるいは土地の事情から、広い歩道があちこちに見られますし、その歩道に花壇や並木の用地をつくってありますが、そこが草ボウボウの状態になっているところがあります。最初につくる時、設計の時に詳しく指示をしなかったのではないと思われるようなところがあります。具体的に言うと永山町、裏町の10丁目木材市場の前、その並木道です。木は花の咲かないただの木が植えられていて、下は雑草だらけです。造る時に問題があったと思います。もう少しまちをきれいにしようと思ったら、つくる時からきちんと仕様書などで、入れる土についてもしっかりと考えて発注してもらわなければならないと思います。土木部としてその辺まで考えて発注しているのでしょうか。今後も大切なおことだと思います。

最後ですが、5月31日の新聞に「職員の知恵 1件最大5百万円」という記事がありました。私は非常にいい制度だと思います。民間的な発想を取り入れて、これが軌道に乗ってくれたら市の中の改善というか、意識構造の改善、市民の考え方の改善ということにつながるのではないかと思います。期待しておりますのでどうか一生懸命ハッパをかけてほしいと思います。

市長

どうもありがとうございます。

簡潔に分かるものについて回答させていただきたいと思います。

紙・プラスチックのごみの回収の回数を増やすことについてですが、具体的には来年度の予算の中で検討を進めていくことになるのかなと思いますが、いずれにしても紙・プラスチックの回収回数を増やすことになると、お金がかかることとなりますので、来年度の予算の中でそのお金を捻出できるかどうかという課題があると思います。今後検討して、さらに詰めていかなければなりません。一方で紙・プラスチックの回収を増やすのであれば、生ごみの回収をもっと増やしてほしいという意見もあります。生ごみは腐る、臭いのでという点です。また同じ財源を使うのであれば、お金がたくさんあるなら別ですけども、そのごみの予算を、例えば要望があるごみステーションのネットですが、細かい目でカラスがつかないようなネットにしてみられないかというような要望もあるのですが、お金の問題でなかなかできないということもあります。このように、ごみ行政全般の中での検討事項の一つとして加えさせていただきたいと思います。

町内会加入についてですが、組合に対して提示という形は現在取っておりません。あくまで職員の自主性ということに重きを置いて、私からいろんな機会にお話しをさせていただいているという段階でございます。

跨線橋の部分について、JRは出してくれないということになれば、市が出すということになるでしょうが、こういうふうに跨線橋をかけるという設計をつくっている業者さんも何社かいらっちゃって、私もイラストを5年も6年も前に見せていただいたことがございます。これについても地域の要望として今日この時点で予算を付けられるかどうかという判断までは至りませんが、引き続き私どもも検討させていただきたいと思います。

インセンティブ予算は今年からスタートします。これをどうやって実効性のあるものにするかというのはまだ分かりませんが、できれば今年度一つでもそういうケースができればいいなと思っております。

花壇の部分については、全市的な部分でもう少し丁寧ということかなと思いますが、もし具体的にございましたら、土木部で対応させていただきまますので、後日ご連絡いただければ幸いです。

参加者F

私の言ったことに対して答えはいいません。ただ、市長さんの心の中に止めておいていただければいいなと思います。

永山の町名変更、住居表示についてですが、永山の北地区、宗谷本線から石狩川の間6、7、8、9丁目は工業専用地域でありますから、町名変更だけでいいのかなと思います。それから10、11、12丁目、今、永山新川ができ、ほんの一部13丁目が入ります。そこまでの町名変更、永山北何条何丁目という町名変更は是非お願いしたいと思います。

裏町と宗谷本線から石狩川までの間と、それから2番線から奥、1番線から奥のところは永山町何丁目という町名になっています。同じ6丁目が二つ、同じ7丁目が二つと、二つずつあることになり、来訪者にとっては非常にわかりにくくなっています。

東郵便局に郵便番号の自動仕分け機というものが導入され、旭川に来たすべての郵便物が仕分けをされて、そして永山郵便局に送られてくるのですが、ここでもう一度仕分けをしなければいけないということになり、郵便物の配達も遅いということがあります。

もう一つは、火災などの時に、住所がはっきりせず対応が遅れがちだということもあり、市民委員会では10年前にこの問題を市の方に陳情いたしました。

今、春光地区を住居表示しているそうですが、これは7年ぐらいかかっていますよね。その前に永山を実施することになっていた時期がありました。それが春光町の方が先に実施されたことについては、仕方がないなと思いつつながら、7年間待ってきたわけです。担当部局の方では平成21年には是非永山を始めたいと言っていますが、私の考えでは5年ぐらいかかるのかなと思っています。

初めはどこからやるのかというのは、ちょうど10丁目が住宅もだいたいそろってきましたし、住居表示もそろってやれる所かなと思っています。先日、10丁目の裏町の6町内が市に陳情書を提出していると思います。ですから順番については10丁目の裏町からということについては私たちも認めます。それと6丁目は住居表示もできます。木工団地がありますからできますけれども、その後の7、8、9丁目はこれは町名変更だけでいいです。それから11、12、13丁目については、旭川の方からやっていくとすれば町名変更だけ先にやられるのかなと思います。

是非来年、大変でしょうが予算付けの方をよろしくお願いしたいと思っています。

参加者G

よろしく願いいたします。

ごみの処分場の利用方法について、ホームページを見ますと、引っ越しや大掃除などで出た一時的な大量ごみを一度に処分する際は自分で処分場に運ぶこととなっております。市役所に電話して問い合わせたところ、処分場に電話するよう言われました。処分場に電話すると「まずすべて分別してください。そして市の許可業者に依頼をしてください」と言われました。再度市に電話を入れたところ、「そんなことはありませんので、もう1回担当者から電話をさせます」とのことです。処分場から電話はきたのですが、同じ答えでしたので、市役所のお話をしましたら、「原則はそうになっています。ご自分で処分場に持って来られてもいいですよ」と言われました。ところが「何のごみですか」といろいろ詳しく聞かれたものですから、いろいろお答えしますと、「町内のごみステーションに分けて出してください」とのことでした。一度に大量にごみステーションに出すと他の方が迷惑しますよね。私の町内でも一、二度そういうことがあったものですから、自分で処分場に運ぼうと思ったのです。

処分場は一般市民が使えるものではないのですか、業者専用の処分場ですかと尋ねると「担当者ともう1回話をします」と言って、また電話をくれたのですが、「お名前を教えてください」と言われ、名前と住所を伝えました。そうしたら、「今日受け付けましたので、〇〇さんの場合はいいですよ」と言うんですね。「他の市民はどうなんですか」と尋ねると、「原則がありますので、あらかじめ処分場に連絡をいただいて、許可するかしらないかお返事させていただきます」と言われましたので、「ちょっとおかしいんじゃないですか」と私は言いました。

今、年寄りが多くて、身内がいなくてたくさんいらっしゃいます。そういうごみの処分を誰に頼むのかというと、子どもが遠くにいてすぐには来られない方がいます。町内の方や私たちが

手伝って処分できませんかと尋ねると、「それはできません。あくまでも身内のごみですだけです。他人のごみは受け付けられません」とはっきりと言われました。市民の税金でつくった処分場が、業者だけのための処分場で一般市民が自由に使えないのでしょうか。処分場には計量する所があり、そこでごみの内容を審査するそうです。市民が自由に処分場に持ち込んで、そこで審査してもらって、それでだめでなら持ち帰ればいいと思います。それでもだめなのかと尋ねると、「今、内緒でお金を取って運んでくる人がいるんです。そういう人がいるので、そういうことを防ぐためにも厳しくしています」ということでした。私たち市民はそういう疑いを持たれて処分場を使わなければならないのでしょうか。その辺が本庁の方の環境部と処分場の担当者の見解や考え方が違うのではないのでしょうか。同じ業務をやっているのですから、連携をうまくやっていただきたいなと思います。

また市民が自由に使えるような処分場であってほしいと思います。確かに分別は必要です。また税金で新しい処分場をつくらなければならないわけですから、市民も一人一人考えて行かなければいけないと思います。そういうPRもしているのですから、市民も認識しているはずですので、もっと柔軟な対応をしてほしいと思います。これについては回答はいりません。そういうことがあったということを知っておいてください。

永山小学校についてですが、確か一昨年前に永山小学校の外の緊急避難用の非常階段が取り払われました。理由は「永山小学校は避難誘導はきちんとできる学校になっていますからなくてもいい」ということでした。また、非常階段に替わるものがあるのかと尋ねたところ、「ありません。ただ両サイドに玄関があるので、どちらの玄関からも避難はできます」という回答でした。

非常階段は学校を建てる時、必要があったから設置したと思います。必要ないものは設置しないと思います。今、外に小さな階段状のものをつくってあり、3階からは降りられないようになっています。そのような状態で、いつ災害が発生するかわからない時代に、子どもたちの安全を無視するような行為ではないかと思います。確かに財政状況が厳しい中で建て替えることは大変だと思いますし、そういう内容の回答をいただいた時、私も納得しないまでも追求はしませんでした。

旭川市内の学校も耐震化の問題も出ていると思います。大変税金もかかると思います。しかし避難するものだけはなくさないでいただきたい。子どもたちが安全で安心して勉強できる場所をつくってほしいと思います。

市長

それでは今2点いただきましたので、私ももう1回しっかり調べてみます。

参加者H

私は市長の回答はいりません。言うだけ言わせていただきます。

まずいろいろと問題になっております、後期高齢者医療制度、それから道路特定財源などがありますが、これらは国の施策でありますから、市にどうこうだと言っても意味はないと思いますので、関連する部分についてお話しさせていただきます。

例えば税金の無駄遣いです。大問題になっていますね。それが市の中にあるのかないのか、非常に疑いを持っています。

永山6条24丁目の通学路など、道路をつくることですが、道路特定財源は道路をつくるためには絶対必要と言います。しかし道路をそんなにつくってどうするのですか。人が歩く道路はつくらなくて、車の走る道路ばかりつくって。つくった後には補修はしなければならない、管理しなければならないのです。竹ぼうきで掃いて、春先になったらプロパンガスのポンプを持って路肩の氷を溶かしています。これは全部税金です。これは市道ではなく、国道か道道なのですが、そういうことをしているんですよ。感覚がおかしいのではないかと思います。また国道に花壇があります。何をやっているんですか。草ぼうぼうです。近所の皆さんが手入れして、行政はつくった後は何もしていません。金をかけて花壇を使っておいて何も手分けしない。そういう無駄使いが現実にあります。

除雪の関係ですが、除雪が悪いとよく聞きますが、私は市民の一人として、税金ですから

少々は我慢しようと思います。これは質問ですが、春先になりますと道路に砂をまきますね。砂まき自体は結構なのですが、あんなに砂をまく必要はないのかなと思います。春になったら砂が山をつくっています。ちょっとやり過ぎなのではないでしょうか。委託業者からすると予算を消化しなければなりませんから砂をまきますが、砂をまいたら排水する。これの繰り返しです。例えばそういう身近なことひとつとってもそういう無駄遣いがあります。それでお金が足りない、予算が足りないと言うのは市民の一人として国民の一人として許せません。そういう無駄を省いてからであれば、我々市民も国民も払わなければいけないものは払います。これは国の問題も多いですけれども、市としても、市長としてもそういう無駄にメスを入れて、しっかりとやってください。市民もそれに対してはバックアップしたいと思いますので。

市長

ありがとうございます。回答はいりませんということですが、お話しはしっかりと受け止めさせていただきます。

参加者I

信号機には住所表示板がついていたり、ついていなかったりするのですが、これはどういう根拠によるものですか。

それから、角の家の壁に縦書きの住所表示板もついているものと、ついていないものがありますが、つけるのは嫌だとその家の人が言っているのであれば仕方ありませんが、ついていると便利なのでぜひ設置してほしいと思います。

土木部長

根拠については今用意しておりませんので正確なことは言えないのですが、住所表示は建物に表示する場合と信号機の上に表示する場合と2通りあり、信号機の方に表示してあるのは土木部の予算で行っております。住居表示で住所が確定次第、表示する場所として信号機が一番いいということで、土木部で信号柱に表示しています。

建物については違う部署が所管しておりまして、市民生活部が担当していると思いますが、これも住居表示が確定次第、順番に設置されているということです。概ねそういうかたちで行っております。

参加者J

お答えはいりませんが、何らかの形で反映してください

今、市の借金はどれくらいあるのでしょうか。だんだん増えていっているように思いますが、せめて借金を増やさない、横ばいの状態にしなければならないのではないのでしょうか。何年までにいくら減らしたいという目標を示してください。これは市長の考え方ひとつだと思います。市長が本気であればその気持ちも伝わって、かなりの市民が応援してくれると思いますので、自信を持って市政運営を行っていただきたい。市民も我慢するところは我慢すると思います。

市長

市の借金については、実は平成17年度から減ってきております。今、大体3千億円くらいの借金がありますが、今年もまた減る予定ですし、今後とも減らしていく予定であります。昨年度は30億円くらい減りました。3千億円のうちの30億円ですから、1%なのですが、これが10年経てば300億円になります。これからも減らしていきたいと思います。

参加者K

信号機を設置してくださいというお願いです。私の町内で3条と6条には信号機があるのですが、5条と6条の間の12、13丁目交差点には、商店が3軒あり、交通量がすごく多いのに信号がありません。もし交通事故が発生したらどうしますか。一度見に来てほしいと思います。

市長

ポスフル永山横の信号機から1番線までの間には信号機がありませんね。

今、市内の各地区から信号機の設置要望が市にきております。多分ここもその中のひとつに入っているのだと思いますが、信号機の設置については警察なんですね。私どもも警察に要望を出すのですが、なかなか設置されないというのが現実です。現地確認等含めてもう一度調べてみたいと思います。

参加者B

市の第3セクターを2つ廃止すると、相当財政状況も良くなると思います。

市長

第3セクターについては今いろいろと協議している最中ではありますが、ただ、第3セクターをなくせば必ずしもお金が必要なくなるということでもないのかなと思います。第3セクターでは、民間では出来ないような、利益も生まれにくいようなところで、なおかつやらなければならないようなものをやっている部分もたくさんあるんですよね。それと第3セクターの役員は、例えば国では天下りで何千万円も退職金をもらって渡り歩いているというような、一般的な天下り、第3セクターのイメージと旭川市の場合は違って、天下りしている人もいますが、非常に安い給料で働いてもらっているというような現状です。ただ、その辺はしっかりと踏まえて改革をしていきたいと思っています。

市長終わりのあいさつ

限られた時間でしたけれども、皆さんとお話させていただき、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

今後とも地域の皆さんと一緒に旭川市が住みやすく元気なまちとして大きく発展していくことができますように、引き続き私も頑張ってまいりますので、どうか今後とも市政に対するご指導、そしてまたお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

今日は本当にどうもありがとうございました。